

自然災害で、依然業況回復せず

9月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

8月の猛暑に続き、自然災害が多くの業種に悪影響を与える。北海道胆振東部地震は主に生鮮食品の品不足や高値を引き起こし、連続して発生した大型の台風は商店街の来街者や建設業・運輸業の稼働日数減少をもたらした。売上・収益は依然として改善せず、全体的に先行きに明るさが見られない状況。

製造業	食料品		パンは、台風が上陸するも売上は昨年並み。菓子は、売上・収益ともに前年を維持。製麺は、天候不順により売上・収益ともに減少となる。酒造は、吟醸酒・純米酒は好調である一方、本醸造酒の売上減少が響き売上・収益ともに減。食肉は、猛暑による豚の成育遅れと安値相場が原因で売上減少。
	繊維・織物製品		桐生織物は、輸出向けが依然として低調に推移、和装織物は、展示会での販売に売上増を期待。伊勢崎織物は、小巾織物が需要低迷しているものの、広巾織物は売上順調。ニットは、売上好調で、秋冬のさらなる需要増を期待。繊維製品は、後継者不足による廃業が散見され、業況悪化。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、台風の影響で出荷減となり、今後の天候回復を待ち望む。生コンは、一部地域に出荷量の増加がみられるものの、県全体では前年比減。コンクリート製品は、売上増となるも、価格競争の激化により収益悪化。砕石は、売上が2～3割低下し、厳しい状況が続く。
	機械・金属		全体的に、自然災害や人手不足で業況に陰りがみられる。SUBARU関連は、新型フォレスターの売上は堅調であるものの、全体としては前年より減少。電機関連は、中間決算期で多忙であるものの、人手不足と天候不順が重なり老朽設備では対処しきれない状況。鍍金は、主・副素材の価格上昇が続き、今後を懸念。
	その他の製造業		木材は、販売価格に大きな変化はないが、原木の出荷不足に加え、原材料価格の高騰が続き収益悪化。紙加工品は、飲料・電機向けの出荷が好調だったが、自動車関連への出荷が減少。印刷は、企業間格差が拡大しており、顧客の獲得競争が激化。ゴム製品は、設備操業度が上昇し、業況好転の兆しがみられる。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、売上・収益ともに前年並み。前橋卸団地は、原材料等高騰と人件費増加、人材確保が課題。太田卸団地は、営業職確保に苦戦するも、売上・収益ともに前年並み。農産物卸は、北海道胆振東部地震の影響で供給が絶たれ、全体的に高値となる。水産物卸は、台風の影響で不漁となり、売上・収益ともに減少。
	小売業		燃料小売は、天候不順で需要低迷するも、原油価格高騰による販売価格上昇にて売上は横ばい。中古車オークションは、出品・成約台数が微増し、売上・収益が増加。生花小売は、敬老の日や仏事関連で動きがあり、売上は前年並み。商店街は、台風の影響で来街者減少し業況悪化。家電は、売上・収益ともに前年並み。
	サービス業		温泉旅館は、2回あった3連休のおかげで業況改善、特に草津温泉では、志賀草津道路が開通した1週間に多くの入込客あり。不動産取引は、貸倉庫、工業用地が不足している状況、建売分譲住宅が消費増税前の駆け込み需要にて売上好調。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みとなる。
	建設業		建設工事は、公共・民間工事減少にて停滞が続く。解体工事は、体育館・工場等の耐震改修工事が増加、引き続き業況好転。電気工事は、作業員不足が改善できず。塗装工事は、公共工事の入札増加が見込まれており、仕事量回復に期待感あり。鉄構は、設計図面遅れが原因で工場能力を超えた生産を強いられる。
	運輸業		3連休・台風による稼働日数と恒常的なドライバー不足による稼働車両の減少に燃料価格の上昇・高止まりが追い打ちをかけ、厳しい状況。野菜類は、悪天候の影響でキャベツの配送量が減少。小口配送は、件数は減少したものの、遠方輸送が増加したことで売上は前年並みとなる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 114.1(前月比+1.1%)「県統計課・8月」
- 住宅着工戸数 1,086戸(前年同月比▲2.6%)「県建築住宅課・8月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.54倍・有効1.79倍「群馬労働局・8月」
- 大型小売店販売額 204億円(前年同月比+3.1%)「経済産業省・8月」
- 消費者物価指数(全国) 101.6(前年同月比+1.3%)「総務省統計局・8月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)